

セラピードッグ「ヨギ」の紹介

静岡県立こども病院で、セラピードッグのベイリーとハンドラーの森田優子が2010年1月から活動を始めましたが、2012年7月よりベイリーと森田が神奈川県立こども医療センターに異動し、セラピードッグのヨギとハンドラーの皆川誠一郎が後任となりました。

私たちは前任のベイリー、森田優子と同じくNPO法人タイラー基金から無償でこども病院に派遣されています。タイラー基金は乳児白血病で亡くなった、米、英国夫婦の息子、タイラー君の2年間の日本の病院での入院生活の中で、「日本の病院は医療の質は素晴らしいが、入院中のこどもとその家族のサポートがされていない。」と感じた両親が、日本の小児がんのこどもとその家族をサポートするために設立されました。

ヨギはベイリーと同じオーストラリアで生まれました。ヨギは代々セラピードッグの家系に生まれ、遺伝性の病気がないか、性質がセラピードッグに向いているかチェックされています。生後2か月でハワイに渡り、補助犬を育てるトレーニングセンターで1歳になるまでトレーニングを受けて、静岡県立こども病院で働くために日本にきました。

ヨギは日本のこども病院ではベイリーに続き、2頭目の常勤のセラピードッグであり、平日は毎日こども病院で活動し

ています。常勤だからこども達やスタッフと信頼関係が構築され、また、治療プログラムへの組み込みが可能となります。

その活動内容は各病棟を回り、プレイルームや病室でこども達と触れ合ったり、ベッド上で添い寝をしたりします。採血や骨髄穿刺などの辛い検査に付き添ったり、不安がある子と一緒に手術室に行き、麻酔がかかるまで付き添ったりもします。

大型犬であるヨーロピアンゴールデンレトリバーのヨギは、とても穏やかでのんびりとした性格です。こども達が口の中に指を入れたり、耳を引っ張ったりしても決して怒ったり噛みついたりすることはありません。そのような我慢強い性格を持っているので、こども達は安心してヨギと触れ合うことができます。ヨギは泣いているこどもを見ると慰めようと静かに寄り添います。そのような姿を見ると、ヨギの強い優しさには感心してしまいます。

「ヨギがいれば薬を飲む。」「ヨギと一緒に辛い検査も頑張る。」「ヨギと一緒に笑いながら手術室に行ける。」これまで様々な変化をこども達に与えてくれました。セラピードッグの役割とその必要性が認知され、入院中の患者さんとそのご家族が前向きに治療を受けられる病院の環境が日本中に広まることを願っています。

脳神経外科の紹介

脳神経外科 田代 弦

当院の脳神経外科は、静岡県全体の中枢神経系先天奇形や小児脳神経疾患治療の、まさに中核を担う“最後の砦”的な役割を果たしています。脳腫瘍や神経管閉鎖不全、頭蓋奇形、類水頭症、そして重症頭部外傷など、あらゆる小児脳神経に関する疾患の治療に当たっています。

◆地域との連携

頭痛から頭囲拡大・大泉門早期閉鎖など「どんな脳外科疾患が潜むかわからないけど…」という、症状だけからのご紹介も最近はいただいております。従来敷居の高かった脳外科ですが、「画像だけでも一度診て貰ったら安心だから…」というお気持ちでご紹介下さい。地域連携室で新患枠をご予約します。

◆入院の調整

当科に直接お電話いただき、ご相談いただいても結構です。緊急を要する症例には365日on call体制を敷き、院内でPICUなどと調整し搬送の手筈を整えます。火・木曜日の外来を受診いただける症例であれば新患枠で診察後、入院予約を取らせていただきます。

◆新たな治療法の導入

神経内視鏡により開頭せずに頭蓋内嚢胞などの開窓、腫瘍の摘出、頭蓋内シャント路の形成などを行っています。臍より挿入した腹腔鏡直視下、腹壁に切開痕を残さず穿刺のみで、腹膜内にシャントを通します。脳性まひなどの痙縮に対して、脊髄髄腔内への持続的バクロフェン注入により、近況を緩和し体位の保持・移動を楽にします。

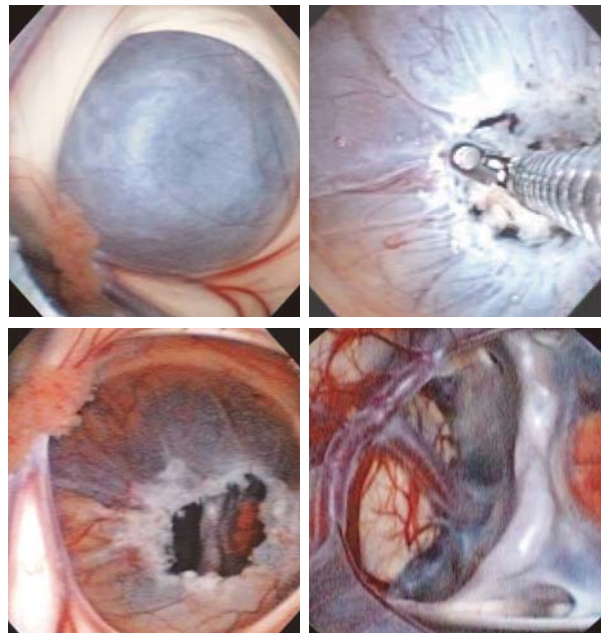
◆連携間口の広さ

「他の疾患でNICUに紹介するけど、少し脳神経にも心配が…」という症例には、紹介状の欄外にご記載下さい。院内あらゆる科と連携しておりますので、必ず診察に伺ってその後の観察と経過報告をさせていただきます。

◆他科との連携による主な治療疾患

- 産科： 中枢神経系胎児奇形・水頭症
 - PICU： 重症頭部外傷例の緊急開頭血腫除去術、穿頭脳圧モニター設置
 - NICU： 先天性中枢神経系奇形の整復術や新生児水頭症管理
 - 泌尿器科： 尿道下裂などに合併する二分脊椎・係留症候群
 - 小児外科： 鎖肛などに合併する二分脊椎・係留症候群
 - 整形外科： 側弯などに合併する二分脊椎・係留症候群、骨軟骨異形成症
 - 血液腫瘍科： 脳腫瘍、頭蓋骨腫瘍
- その他、頭蓋縫合早期癒合症、もやもや病、ガレン大静脈瘤、血管腫からの脳内出血など、あらゆる小児脳神経関連の疾患に対処します。

モンロー孔を閉鎖したクモ膜嚢胞に対する内視鏡下開窓術



腎臓内科の紹介

腎臓内科 山田昌由 長野智那 鵜野裕一 北山浩嗣 和田尚弘

当院の腎臓内科は、学校検尿からネフローゼ症候群・腎炎、水腎症・尿路感染症、急性・慢性腎不全、透析・腎移植までありとあらゆる腎疾患に対して、中部地区のみならず、少なくとも静岡県内に関しては、責任を持って診療させていただいています。

このように学校検尿から透析・移植までを一病院にて診療できていたり、NICUでの極低出生体重児にまで血液浄化療法を行っている病院は全国の小児病院でも多くはありません。これは当科単独では無理な事で、地域の先生方や院内の他科の先生方との連携が上手く行っているためであり、今後もこの良好な関係を継続して、子供達によりよい医療を提供していきたいと思えます。



◆地域連携

昨年度は123件のご紹介をいただきました。今後も気軽に何なりとご紹介いただければと思いますし、そうしていただけるようにしっかりとフィードバックもしていきたいと思えます。また、電話でのご相談だけでも構いませんので、先生方との間のハードルは、低いまま保ち続けていきたいと思えます。

今まで地域独自に行っていた学校検尿を、簡素なフローチャート式での県内統一方式を目指し、現在作成が進んでいます。これにより学校検尿に多大なご協力をいただいている先生方のご負担を少しでも軽減し、昨年度改訂された「学校検尿のすべて」と合わせ、子供達に過度な負担なく、より有意義な学校検尿にしていければと思えます。

◆入院、院内連携

入院では当科入院の腎疾患の診療はもちろんのこと、その他にCCU、NICU、PICUの集中治療室での急性血液浄化療法や電解質異常・腎不全時の薬物投与量など他科からいろいろコンサルトをいただいています。当科からも水腎症、VUR、腎移植など外科的な処置が必要なときには泌尿器科、小児外科等にすみやかにご協力いただくなど病院内でも密接な連携をさせていただきながら日々診療しています。

◆当科研修

当科には県内のみならず、全国から研修に来られ、その後その地区に戻り、小児腎臓内科医として活躍されている先生が多数いらっしゃいます。今後も当科にて研修を行いたいと思われるような魅力的な科であり続けるように努力し、県内に共に働き、協力し合える小児腎臓内科医がもっと増えていければと思えます。採用枠の関係上すぐにはお受け入れできないこともありますが、当科での研修希望がございましたら、まずはご一報いただければと思えます。

ボランティア サークル 「つみきの会」



活動内容

事務局	会の運営
病棟	入院児の遊び相手、話し相手、食事の世話、他
外来	外来のこどもの遊び相手、他
ぞうさんのお部屋	外来でのミニイベント、他
図書	図書の整理、ブックトラック 訪問教育でのブックトーク、他
作業室 ・草の実グループ ・あゆみグループ	小物の縫製、シーネ作り、衛生材料作り、おもちゃ拭き、 キムタオルのカット、アイマスク作り、他
園芸	正面玄関の花壇の植え替え・手入れ・水やり、他
学生ボランティア ひまわり(常葉大) さくらんぼ(英和大) こじか(県短大)	入院児の遊び相手、 夏祭り、クリスマス会、フェスタ参加 外来でのミニイベント 他
その他	・夏祭り、クリスマス会、フェスタ参加(バルーン提供) ・熱帯魚の水槽の手入れ ・呈茶

●講演会のお知らせ●

11月1日(木) 18:30～ 会場：こども病院大会議室
 テーマ：静岡県立こども病院P I C U開放後5年間の診療成績のまとめ
 ～静岡県における小児救命救急医療の現状と課題の呈示～
 講師：P I C U金沢貴保医師

11月9日(金) 18:30～19:45 会場：こども病院大会議室
 テーマ：小児科診療におけるL-カルニチン欠乏
 講師：名古屋市立大学大学院医学研究科 伊藤哲哉先生

11月21日(水) 14:00～16:00 会場：こども病院大会議室
 テーマ：小児アレルギー教室～アトピー性皮膚炎～講義と実演

12月6日(木) 18:30～ 会場：こども病院大会議室
 テーマ：川崎病の急性期治療
 講師：免疫アレルギー科 木村光明医師



こども病院HP(<http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/>)「病院セミナー」にも講演会情報を掲載しています。

各診療科医師の異動のお知らせ

退 職		採 用	
麻酔科	加古 裕美	小児外科	矢本 真也